

未来を変える地域共創

Hirosaki University

企画 朝日新聞社メディアビジネス局
制作 AERAムック教育編集部

広告特集



教員と学生が担当する肺機能検査。「学生さんに会うと元気が出ます」と言う地元の人は多い

ある学生は、子どもへの健康教育の重要性を感じる。ある学生は、同じブースで働く大手企業の社員から社会人としての姿勢を学ぶ。なかでも、医学部の学生には必須の「学びの場」だ

と中路特任教授は力説する。
「医師にならう」と、彼は日々「患者」としか向き合いません。でも、ここには「病気になる前の人」があります。なぜかに悪いと知つてもお酒

やたばこをやめないのか。運動すべきなのではないのか。その理由がここにならわかる。人の心をわからうとしなければ、信頼される医師にはなりません」

この研究は、「弘前大学ではなればできなかった」と話すのは、弘前大学COI研究推進機構の村下公一教授だ。

「ビッグデータの中身は、極めてデリケートな個人情報で

す。それを地域の人から提供してもらえたのは、強い信頼関係があったからです。古くから地域に根を張ってきた弘前大学だからこそ、可能になったことだと思います」

弘前で目にしよう

岩木健診を担う中路重之特任教授（右）と村下公一教授



弘前大学

Hirosaki University

青森は日本一の「短命県」だ。男性は1985年から、女性は2000年から平均寿命全国最下位が続いている。

「短命県を返上する！」
その旗印を大きく掲げたのは、弘前大学だった。中心となつた同大学院社会医学講座・中路重之特任教授はこう話す。

「青森県は単に高齢者の寿命が短いだけではなく、40代50代の死亡率も高いのです。背景に

は喫煙率、飲酒率、肥満率の高さがあり、生活面での問題が山積していた。『産官学民』が一體となって闘わなくては勝てないほど、敵は巨大です」

そこで始まったのが「岩木健康増進プロジェクト」だ。12年前に岩木町（現・弘前市岩木地区）で始まった健康診断だ。だが、単なる健診とはわけが違う。

診当日は血液、尿、便液、嗅覚、記憶力、運動機能などを超える検査アーチを回る。所要時間は、1人平均5～7時間。

調査は世界に類を見ない。小中生の健康診断を含めると、現在まで延べ2万人に及ぶ「健

康ビッグデータ」が蓄積され、その解析によって「動脈硬化とアルコールや喫煙の関係」「軽度認知障害への関連因子」など、多数の研究発表が生まれた。

13年には、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム（COI）」にも採択され、16年の科学技術振興機構の中間評価では医療・健康分野で唯一の「最高評価S」を獲得した。

いつしか医療の分野では、「岩木に行けば、健康に関する宝の山がある」と知られるようになつた。ヘルスケアに力を入れる大手企業も続々と参画し、健診当日は全国から駆け付けてスタッフとして働く。健診を受けた地域の人々も、中路特任教授らの熱意を受け止め、「健康増進リーダー」などの形で加わっている。また弘前大学は、医学部のみならず、ほぼ全学部から、教職員と学生が集まり汗を流す。

「岩木健診は授業の一環ではあるのですが、学生には単位を取り以上の学びがあります」と、中路特任教授は言つ。何を学ぶかはそれぞれだ。ある学生は最新の医療機器に触れる。

それはノーベル賞を受賞する研究とは別の大きな価値があると信じています。

とはいえ、我々のまなざしは地元だけに向けられているわけではありません。

学生の約6割が県外出身者ですから、卒業後に青森を離れる人も多いでしょう。

しかし、この地で現実社会の課題と向き合った経験は、世界中のどの地域でも通用します。グローバル社会でも必ず役立つ普遍的なものなのです。

弘前大学の学生たちは、非常に元気で

本学は以前から、地域との連携により世界レベルの研究を目指してきましたが、我々は迷わず三つ目を選択しました。

弘前大学は、地域どもにある大学であります。私はそれを誇りに思っています。

2年前、文部科学省主導で全国の国立大学の3類型化が始まりました。一つ目は「世界レベルの教育研究を推進する大学」、二つ目は「特徴的な教育研究を推進する大学」、そして三つ目は「地域の活性化に貢献する大学」です。

我々は迷わず三つ目を選択しましたが、

弘前大学は以前から、地域との連携により世界レベルの研究を目指してきましたが、



一人ひとりにあった合格までの道がある

— 河合塾 河崎力校舎長に聞く「今やるべきこと、大切なこと」 —

社会がめまぐるしく変化するなか、受験勉強の仕方も変わっているのだろうか？多くの受験生を見守ってきた河合塾の河崎力さんは、「2020年度からの入試改革などが注目されるが、受験生にとって本当に大切なことは変わらない」という。志望校の現役合格を勝ち取るために必要なことや学習アドバイス、塾を上手に活用する方法などを聞いた。

Q 大学入試が変わると聞きました。
勉強内容も変わるのでしょうか。

入試での問われ方が変わるだけで
土台となる教科ごとの基礎知識は
変わりません。

2020年度から「大学入学共通テスト(仮)」という新たなテストが始まる予定です。これまでの知識偏重を改め、より思考力・判断力・表現力を問うテストへ、という方向性が示されていることから、「知識はあまり重要でなくなるのですか？」といった誤解をしている人もいます。しかし、筋道の通った思考や正しい判断は、基礎的な知識とそれを扱う技能があって初めて成立つもの。決して知識の重要性が薄れるわけではありません。

既に国公立大学の2次試験などでは、培った知識をベースに論述をさせたり、解答に至るまでの思考のプロセスを見たりする問題が多く出題されています。今後も受験生に必要なことは、表面的な

現役合格をつかんだ先輩たちの声 ～河合塾で学んで～

京都大学法学部
立和名 離乃さん(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 出身)

河合塾の授業形式が良かったです。私が受けている授業は、本番を想定した90分間のテストゼミの後、休憩を挟んですぐに解説を行うという授業形式でした。このテストゼミを毎週受けたことで、難しい問題があつてもすぐに諦めず、最後まで自分で考えて解き進めようとする力が身につきました。

千葉大学医学部医学科
高松 葉さん(桜蔭高等学校 出身)

講師の先生方が授業後なども質問や相談に親切に答えてくださったことが、大きな支えになりました。質問することで不明点が明確になり知識も定着するので、毎回濃い時間を過ごすことができました。私が自信をなくして焦っていた時期には、励ましの言葉をかけていただき、最後まで頑張ることができました。

浅い理解ではなく、深く理解するための地道な学習であって、入試の仕組みや問題が変わるからといって慌てて何か新しいことを始める必要はないと思います。

Q 高校1・2年生の時期を
有意義に過ごす学習法は。

先取り学習よりも
1・2年生のうちに学ぶべき
内容をしっかり身につけましょう。



時々、生徒から「うちの学校は他校と比較して学習進度が遅いけど受験に間に合いますか？」といった相談を受けることがあります。しかし1年生は1年生のうちに、2年生は2年生のうちに学ぶべき内容をしっかり身につけていくことが何よりも重要で、先取りをすれば良いといふものではありません。現役合格に失敗した生徒に話を聞くと、1・2年生のうちに身につけるべき内容の理解が不足してしまったまま入試本番を迎ってしまったというケースが多くあります。「わかる」と「できる」は違うので、「わかったつもり」で安心しているのが一番危険です。

国公立大学をはじめとした難関校の現役合格をめざすなら、1・2年生の過ごし方で差ができます。学校生活を大切にしながら、限られた時間のなかで「毎日やるべきことをやる」という学習の習慣を身につけた生徒は、しっかりと志望校合格をつかみ取ることが多いですね。

Q 模試の判定が良くありません。
志望校を見直すべきですか。

模試の結果はあくまで参考に。
大切なことは自分の意志と
学習を続ける姿勢です。



3年生になっても志望校合格可能性判定で良い結果が出なければ、自信をなくすこともあるでしょう。しかし大切なのは、結果よりも間違った問題がなぜ間違ったのか、これから何をしなくてはならないのかという、次に向かう視点の切り替えです。最終的にどこを受験するかは本人の判断ですが、早い段階で志望校を変えたいといつてもいいような生徒には、「簡単にあきらめちゃダメ！頑張れよ！」と励ますこともあります。たくさんの生徒たち

と接してきた私たちの目から見ると「この生徒なら本番には絶対間に合う」といったことも感覚的にわかるので、コーチングをしたりするのです。

生徒本人が「力がついてきた」と実感するのは、高3の12月か1月になってようやくかもしれません。ずいぶん遅いと思われるかもしれません、入試で発揮できる応用力を磨くためには、「筋トレ」のような地道な努力が不可欠で、どうしても時間がかかるものなんです。

Q 難関校に合格したいなら
やっぱり塾に通うべきですか。

自分の目標やスタイルに
合わせて塾を
上手に活用してみては。



学校の勉強だけで合格できる人はいますし、すべての生徒が塾に通うべきだとは思いません。しかし、先ほども述べたように「筋トレ」は誰にでも必要ですし、ひとりで計画的に学習を続けることの難しさは多くの人が知っているでしょう。

塾に通うメリットのひとつは、学習のペースメーカーができることです。1年生の夏のテーマはこれだ、2年生の1学期は絶対にこれをマスターしよう。そんな明確な指標を掲げ、そこに到達する方法を具体的に教えられることが私たちの強みです。

河合塾は長年にわたって蓄積してきた入試データに加えて、生徒一人ひとりの能力や生活習慣、性格などに合わせて最適な学習プランを提案できる、その引き出しの多さには自信があります。今の勉強法で大丈夫だろうか、何をやれば良いのかと不安に思ったなら、河合塾のような経験豊かな指導者がいる塾に頼るものひとつ的方法だと思います。

河合塾 札幌校 校舎長
河崎 力さん

かわさき・つむ／1997年河合塾入塾。2012年自由が丘現役館館長を経て、16年から現職。高校生・高生の指導歴は20年以上。高校生や保護者向けの進学講演を年間多数行っている。



国公立大学の
入試対策をしたい！

同じ大学をめざす
仲間と切磋琢磨
して頑張りたい！

集中して勉強
できる環境が
ほしい！

三日坊主に
なりそうで心配…

動画の授業では
すぐ質問
できなくて不安

苦手科目を
克服したい！

こんな
お題には
河合塾

夏期講習

7/15(土)より
順次スタート!
河合の夏 検索

2学期入塾
7/14(金)受付開始!

大学入試情報誌プレゼント
キャンペーン実施中!

大学受験をはじめよう 検索



河合塾のチューター
が教えます！
苦手科目の克服方法を
知っていますか？



自分と、ぶつかる夏。
自分を、超えていく夏。

北海道・東北・首都圏		中部		近畿		中四国		九州		MEPLO	
札幌校	自由が丘現役館*	横浜校	松戸校	現役館*	大坂校	現役教室	寝屋川*	広島校	福岡校	MEPLO池袋教室*	
仙台校	吉祥寺現役館*	あざみ野校*	津田沼校	現役館*	大阪校	現役教室	堺東*	鳥取校	福山校	MEPLO本郷教室*	
本郷校<東大専門特化>	銅布現役館*	金沢現役館*	千葉現役館*	千種校	岡崎現役館*	上本町校	現役教室	岸和田*	北九州校	MEPLO渋谷教室*	
麹町校	立川校	大宮校	水戸校	豊橋校	刈谷現役館*	天王寺校	現役教室	甲子園*	福岡校	MEPLO横浜教室*	
新宿校	校	田校	南浦和現役館*	岐阜校	星ヶ丘現役館*	京都校	現役教室	三田*	西九州校	MEPLO西大寺*	
池袋校	厚木現役館*	川越現役館*	浜松校	個別指導教室	神戸三宮現役館*	都校	現役教室	西大寺*	現役教室	MEPLO横浜教室*	
秋葉原館*	藤沢校	柏校	四日市現役館*	K-pro千種教室	現役教室	現役教室	現役教室	八木*	現役教室	仙台校	MEPLO仙台校*

*(学)河合塾主催。ただし、仙台校は(学)文理学院主催。*の校舎は(株)河合塾進学研究社主催。
現役館は登録商標です。

【河合塾の公式アカウント】
LINE@

河合塾